

梅雨入りしました。病気に注意です。



病虫害の発生は、気象条件に影響されます。害虫は高温で乾燥すると活動が活発になります。病気はイネのいもち病や野菜の灰色カビ病のように多湿時に多発します。ですから、梅雨の時期は病気の発生に注意です。

しとしとと雨が長く続くと、カビがはびこります。植物の病気の7割以上は、菌類（カビ）によります。雨が降っていなくても曇天が続くことが多く、高い湿度が維持され、また、雨により濡れた葉や株元の土壌が乾きにくくなります。これらも病気の発生を助長する条件となります。

軟腐病、黒腐病のような、いわゆる細菌病は、湿

度の他に、植物体表面の傷が感染の引き金になります。

萎凋病、青枯病、疫病などの土壌伝染性の病気は、大雨などで畑に雨水が流れ込むと、水の流れる方向に沿って病気が発生したり、水が溜まった場所で病気が多発することがあります。排水対策が必須です。

写真は、ネギの黒斑病とさび病です。長雨の時に発生しやすいので、殺菌剤（アミスターなど）で予防します。